



M2搭載の新型「MacBook」、買うなら「Air」の一択！



アップルは自社開発した新CPU「M2」を初搭載した「MacBook」シリーズの2モデルを来月、発売する。税込価格は廉価版の「Air」が円安の影響で前モデルから6万円値上がりして16万4800円となり、上位機「Pro」との価格差はわずか1万4000円に。「どうせ買うなら上位機のProだ」そう考えるのも当然だが、本当にそうか？

「Air」と「Pro」はどこが違う？
6万円の大幅値上げが断行された「MacBook Air」（同社ホームページより）

両モデルを比較してみよう。コンピューターの頭脳に当たるCPUや画像処理を担うGPU、機械学習関連の処理に特化したNeural Engine、メモリモジュールが1秒間に転送可能なデータ容量のメモリ帯域幅は全て同じ。つまり基本性能は同じだ。

両モデルの違いはディスプレイ。「Pro」に比べて重量は160g軽い「Air」だが、ディスプレイは0.3インチ大きい。ピクセル数も「Air」の方が、わずかながら多い。特筆すべきは色の再現数だろう。「Pro」が数百万色以上なのに対して、「Air」は10億色と3ケタも違う。「人間の目で違いが分かるのか？」との見方もあるが、性能は間違いだ。

外部接続端子も「Air」の方が多い。Thunderbolt 4（USB-C）ポートが二つあるのは同じだが、「Air」には充電専用のMagSafe 3充電ポートを別途備える。「Pro」はUSB-Cポートで充電するので、空いているポートは一つだけで使い勝手は悪い。

リモート会議で利用される機会が増えた内蔵カメラは「Air」が1080pのフルハイビジョン規格なのに対し、「Pro」は720pのハイビジョン規格。「Air」の内蔵カメラの方が解像度が高く、より精細な動画を撮影できる。

性能面では廉価版の「Air」が、上位機の「Pro」を上回る。しかも「Air」の重量は軽く、価格もわずかながら安い。「Pro」のブランドイメージを重視するのでなければ、新型「MacBook」は「Air」の一択だろう。

なぜ性能で「Air」が「Pro」を上回ったのか？
スペック MacBook Air MacBook Pro

価格（税込）
16万4800円
17万8800円

CPU
Apple M2チップ
←

GPU
8コア
←

Neural Engine
16コア
←

メモリ帯域幅
100GB/s
←

ディスプレイ
13.6インチ
13.3インチ

2,560 x 1,664ピクセル
2,560 x 1,600ピクセル

224ppi
227ppi

10億色対応
数百万色以上対応

輝度500ニト
←

バッテリー容量
52.6Wh
58.2Wh

外部接続端子
MagSafe 3充電ポート×1
なし

Thunderbolt / USB 4ポート×2
←

メモリ（標準）
8GB
←

内部ストレージ
256GB SSD
←

内蔵カメラ

1080p FaceTime HDカメラ

720p FaceTime HDカメラ

厚さ

1.13 cm

1.56 cm

幅

30.41 cm

30.41 cm

奥行き

21.5 cm

21.24 cm

重量

1.24 kg

1.4 kg

それにしても、なぜ「Air」と「Pro」の「下剋上」が起こったのか？これは「Air」が筐体（ボディ）から一新したフルモデルチェンジなのに対し、「Pro」は同じボディにCPUなどの基幹部品を換装したマイナーチェンジだったことによるものだ。

アップルは「Pro」の主力を14インチと16インチの大画面機に移しており、13インチ機は「廉価版Pro」化している。その意味では存在意義が薄れており、いずれ姿を消すかもしれない。ひょっとしたら新モデルが「最後の13インチPro」になるかもしれないが、「コレクター」でない限り購入する意味はなさそうだ。

13インチ「MacBook Pro」を選ぶ理由は「ブランドイメージ」だけ？（同社ホームページより）
文：M&A Online編集部

関連記事はこちら・「MacBook」大幅値上げ、「iPhone14」はこうなる・「iPhone SE3」の値上げは今後の円安を織り込み済み？